

# 発達障害児の母親の揺れ動く心情について —乳幼児期の子育てに焦点を当てて—

仲森 みどり

## 要旨

発達障害児の家族は、様々な心理的な負担感や困難を抱えていることが指摘されている。先行研究によって特に母親は、子どもの乳幼児期に精神的に不安定になることが報告されており、その時期に最も支援が必要となると考える。

本稿では、発達障害児の母親を対象に乳幼児期の子どもの様子や子育ての気持ちについてインタビュー調査を行い、乳幼児期の心理的・精神的サポートの重要性を明らかにすることを目的とした。

質問項目「子育てで困ったこと」の結果として、【子育てで辛かった時期や辛かったこと】が語られた。保育園に在園している時期が辛く、他児の母親の中に入ることが出来ず乳幼児期に孤立を感じ辛かった気持ちが語られた。

## I. 問題と目的

発達障害児の家族は、様々な心理的な負担感や困難を抱えていることが指摘されており、発達障害児・者はもとより、その家族に対しても支援を行うことは重要である。特に母親は、子どもの乳幼児期に精神的に不安定になることがあり、その時期に最も支援が必要となると考える。辻（2022）<sup>9）10）</sup>は、母親が診断告知される前から障害を疑い、不安を高めていること、その子育てにおいても戸惑いや困惑が多いことを述べている。辻・いとう（2023）<sup>10）</sup>らも、発達障害児の親、殊に母親の苦悩は計り知れないことを述べている。また、田宮・大塚（2005）<sup>2）7）</sup>は、発達障害をもつ子どもたちは多くの場合、親の側からすると、「育てにくい子」であるが、そのアンバランスさの理由がなかなかつかめず子どもとの関係も取りにくいことや、親子で周囲の人間から非難されやすいことなどの背景から生じるストレスにより、母親自身が絶えず不安でイライラし、親子で悪循環に陥ることが少なくないことを指摘している。

仲森・大谷<sup>4）5）</sup>の研究では、専門家が温かい態度で母親の相談に応じ、子どもの状態に合わせた働きかけを行うことが、母親の心理的安定感に繋がることが示唆されており、心理的・精神的サポートの重要性が確認されている。また、本郷（2004）<sup>1）</sup>や田中（2015）<sup>8）</sup>らの研究でも、保育者の保護者への精神的サポートの重要性を述べている。

以上のことから本研究では、発達障害児の母親を対象に乳幼児期の子どもの様子や子育ての気持ちについてインタビュー調査を行い、心理的・精神的サポートの重要性を明らかにすることを目的とした。

## Ⅱ．方法

### 1. 調査協力者

発達障害児の母親に研究協力を依頼した。少人数で活動しているピアサポートのような役割を果たす親の会の母親 1 名。親の会と療育センターに通う母親 1 名。療育センターに通う母親 1 名。

### 2. 調査機関

2020 年 2 月上旬。2 時間程度実施。

### 3. 調査方法

1 対 1 の半構造化面接を 2 時間程度実施した。面接調査のデータは同意を得て IC レコーダーで録音し、逐語録を作成した。面接調査では母親には子どもを育ててきた中での心理変化や学校や関連機関による支援への要望などを含め、子育て過程における質問を中心に用意したが、出来る限り調査対象者が自由に語れるように心がけた。

### 4. 倫理的配慮

対象者へ、研究の意義、目的、方法、倫理的配慮について口頭と文書で説明を行った。研究協力は自由意志によること、断つての不利益は生じないこと、個人的情報、プライバシー保護の保証等を説明し、書面にて同意を得た。尚、所属施設の研究倫理委員会による審査により承認を得ている。

### 5. 調査内容

#### (1) 対象者の概要

①母親の年齢②家族構成③性別④子どもの年齢⑤学年⑥学級

#### (2) 子どもの障害についての質問

①診断の有無②診断名③診断を受けた機関④診断を受けた年齢

#### (3) 発達段階ごとの子どもの様子や育児の気持ちについての質問

①乳幼児期の子どもの様子

②診断名を知ったときの気持ち

③子育てで困ったこと

④子育てで嬉しかったこと

⑤心の支えになったこと

⑥子育ての最大の協力者

### Ⅲ. 結果

3名の子どもの母親からの情報に基づいて、対象者の概要について表1に示す。

表1 対象者の概要

対象者	母親	家族		子ども		
	年齢	家族構成	性別	年齢	学年	学級
Aさん	50歳	4人家族 父、母、姉、Aさん	男性	11歳	小学5年生	特別支援学校
Bさん	45歳	3人家族 父、母、Bさん	男性	13歳	中学1年生	中学校
Cさん	50歳	3人家族 父、母、Cさん	男性	10歳	小学4年生	特別支援学級

3名の子どもの母親からの情報に基づいて、子どもの障害について、表2に示す。

表2 子どもの障害について

対象者	診断の有無	診断名	診断を受けた機関	診断を受けた年齢
Aさん	有	知的障害 自閉スペクトラム症	発達医療センター	4歳
Bさん	有	広汎性発達障害	発達医療センター	2歳～3歳
Cさん	有	自閉スペクトラム症 軽度知的障害	発達医療センター	3歳頃

発達段階ごとの子どもの様子や育児の気持ちについての質問項目に対し、母親が語った重要な発言内容を抽出し、表3、表4、表5、表6に示した。その中でも注目すべき語句には、一重線で示した。表3「乳幼児期の子どもの様子」では、【感覚の過敏性】を表す語句を一重線で示した。表4「診断名を知ったときの気持ち」では、【障害受容】を表す語句を一重線で示した。表5「子育てで困ったこと」では、【辛かった時期や辛かったこと】を表す語句を一重線で示した。表6「子育てで嬉しかったこと」では、【子どもの成長】を表す語句を一重線で示した。表7「心の支えになったこと」では、【最大の協力者と親としての成長】を表す語句を一重線で示した。

表 3 乳幼児期の子どもの様子

対象者	インタビュー概要
A さんの母親	1 歳半ぐらいまで何の心配も感じてなくて、ただ音には敏感だった。チャイムの音も怖がって、足にしがみついて足を引きずって玄関に出るっていう感じで、今思えば <u>聴覚過敏</u> だったのかなあって。
B さんの母親	<u>車のタイヤに寝そべって見ていたりとか、音に敏感。</u> 保育所に行ってから <u>お茶が飲めなくて、うちの子だけ保育所の先生がリンゴジュース持って来てもらって良いよって言ってもらって。</u>
C さんの母親	乳幼児期のときの様子として公園の手すりや植木を <u>横目でじーっとずっと見ていたりしていた。</u> <u>白湯を飲まなかった。</u> 明らかに嫌な顔をしてうえて吐き出してしまふ。白湯とか、お茶とか白いご飯とか、味のしないものですね。言われたのが、 <u>味覚障害</u> があって、味がしないのが苦いような変な味覚があったんだと思います。 <u>炭酸も口が痛い、痛い</u> と言っている。 <u>こけるときも、手をつくということがなくて、手のひらを気にする。</u>

表 4 診断名を知ったときの気持ち

対象者	インタビューの概要
A さんの母親	目が合わない、あやすと笑わないといわれていますが、目も合うし、あやせばよく笑うし、3 歳ぐらいまでそんなに他の子と違うっていうのを親が感じていかなかったので、 <u>全くそんなに重いつて思っなくて。</u>
B さんの母親	<u>まだ受け入れられなかった、成長の過程だから、治るって思って、グレーゾーンって思って、普通の子になるんじゃないかなって、まだ自分が診断を言われても受け入れられなかった。</u>
C さんの母親	<u>診断名を紙にワースと書いてもらった時に、一瞬涙目になりましたけど、それまででもう気付いていたので。</u>

表 5 子育てで困ったこと

対象者	インタビューの概要
A さんの母親	<p><u>保育園時代がどんどん悪くなる</u>っていうか、<u>徐々に良くなるんじゃないくて、どんどん悪い方向に行く</u>っていうか、<u>で確かに保育所時代がしんどかった</u>っていうか。追い詰められたっていうのが、小学 2 年生なんですけど、本人が。他害が本当にひどくなって、小学生生活が、ストレスフルで他害行為も毎日あって。藁にも縋る思いで、親の会や自閉症協会とかに入らせて頂いたって感じなんですけど。</p>
B さんの母親	<p><u>保育園に入った頃かな。</u>人と同じことが出来なかった。やりたかったことを私が先にしてしまうと、自分が先にやりたかったってすごく怒って、頭を壁にぶつけたりして癇癪を起してっていうことがあったかな。言葉も理解出来ないし、今は理屈で理解できるけど、<u>気持ちを落ち着かせる</u>ときに辛かったです。</p>
C さんの母親	<p>公園に連れていったりするんですけど、3 時間、4 時間いたりして、他のお母さんは遊具とかで子どもたちを遊ばせといて、お菓子とか食べたり、話をしたりしてるんですけど、<u>私は一切入れなくって、それで一人で辛くって、だけどそれですごく落ち込む</u>っていうことはなかったんですけど、子どもたちがこっちに走ってきたりすると、一人遊んであげている大人みたいな感じで、40 代になってくると体力が落ちてくるし。公園に（他の子どもの）じいじ、ばあばが遊びに来たり連れてきたりすると、（自分の子どもの行動や様子を見て）<u>パッと抱き上げて連れていくのが、辛</u>いっていうかしんどいなっていうのはありましたけど。<u>それは一時のことなんで。</u></p>

表 6 子育てで嬉しかったこと

対象者	インタビュー概要
A さんの母親	多分、普通の子だったら、新幹線かロケットかって成長をしていくと思うんですけど、 <u>かたつむり状態で成長してくものですから、年単位なので、こんなこともできるようになったとか、活舌が良くなったとか、じっくり子どもの成長を見てられるなって。</u>
B さんの母親	嬉しかったこと……。嬉しかったこと……。うーん、 <u>辛かったことしか思い出せないけど。</u> 通学団が歩くのが遅い、しゃがみこんでしまっただけで迷惑をかけてしまっただけで。 <u>そのことを通学団の上級生が学校に言って、学校から B くんの様子をお母さんに見てもらいたいって言われたんですよ。</u>
C さんの母親	とにかく不幸せに思ったことがなくて、薬とかで障害を治せてもう一回やり直せと言われても、今までこの子との大変だった時間とかがなくなるんだったら、薬飲まなくても、良いつて思っている、ちょっとしたことで喜べるっていうのが、 <u>普通の子だったら当たり前に出て来ていることが、この子が出来るとすごい嬉しいし、「すごい」って思うし、幸せに思う。</u>

表 7 心の支えになったこと

対象者	インタビュー概要
A さんの母親	<u>旦那ですね。</u> たくさんの人に支えられているって思います。自分の楽しみだったり、自閉症のことを勉強していることや本を読んだり、人の話を聞いたり。
B さんの母親	<u>旦那さんが子育てに協力的だったことかな。</u>
C さんの母親	この子たちって本当に、うちの子だけじゃなくて本当に親ばかりで天使ちゃんで、汚い物が見えてない、わかってないっていうか、 <u>もう本当に親から見てすごい成長させられたかなって、この子の親じゃなかったらもっと駄目駄目人間だったなって。</u> 私たち二人の子にしたら上出来じゃない？って話をしたりして、皆よく言うんですが、寝顔を見ると謝ったり「ごめんね。」って言ったりする。悪どいこと、腹黒いことを考える能力がないじゃないですか。

表 3「乳幼児期の子どもの様子」の結果として、【感覚の過敏性】が 3 名の共通点として見られた。味覚過敏や聴覚過敏は共通しており、C さんの場合は、手のひらが汚れるということを非常に嫌がり、触覚過敏が見られた。

表 4「診断名を知ったときの気持ち」の結果として、【障害受容】の内容が語られた。A さんの母親と C さんの母親は、受け入れの心の準備や覚悟が感じられる内容が

語られたが、そのことに加え言葉の端々に親としての複雑な気持ちの揺れが感じられた。Bさんの母親は、受け入れることの心の葛藤や苦しさについて語られた。

表5「子育てで困ったこと」の結果として、【子育てで辛かった時期や辛かったこと】が語られた。Aさんの母親とBさんの母親2名は、保育園に在園している時期が辛く、Cさんにおいても他児の母親の中に入ることが出来ず、乳幼児期に孤立を感じ、辛かった気持ちが語られた。

表6「子育てで嬉しかったこと」の結果として、【子どもの成長】について語られた。Aさんの母親、Cさんの母親が共通して語られており、子どもの成長が緩やかであるからこそ、出来なかったことが出来るようになったときの喜びが大きく、じっくりと子どもの成長が見られる喜びが語られた。Bさんの母親は、周囲の子どもが我が子が困っていることを学校に知らせてくれたことの嬉しさについて語られた。

表7「心の支えになったこと」の結果として、【最大の協力者と親としての成長】について語られた。Aさんの母親とBさんの母親は、配偶者が心の支えであり、最大の協力者であることが語られた。Cさんの母親は、我が子の純粹無垢な姿から学ぶことがあり、親として成長することが出来ていることが語られた。

#### IV. 考察

表3「乳幼児期の子どもの様子」の結果として、【感覚の過敏性】が3名の共通点としてあり、味覚過敏、聴覚過敏、触覚過敏が見られた。だが、発達障害の特性と一括りにせず、過敏さも個々に異なるため、一人ひとりの感じ方を様子から把握し、配慮することが重要である。

表4「診断名を知ったときの気持ち」の結果として、【障害受容】を表す内容が語られた。Aさんの母親とCさんの母親は、受け入れの心の準備や覚悟が感じられる内容が語られたが、そのことに加え言葉の端々に親としての複雑な心境や気持ちの揺れが感じられた。そのため、表面上で語られたことのみでなく繰り返し出てくる言葉や心の奥底にあるものに気づく必要がある。Bさんの母親は、受け入れることの苦しさや心の葛藤について率直に語られた。

表5「子育てで困ったこと」の結果として、【子育てで辛かったことや辛かった時期】の内容が語られた。Aさんの母親とBさんの母親2名は、保育園に通っている時期が辛かったと語られた。保育園は、初めての集団生活となり、子どもにとってストレスを感じることが多くなる。親同士も送迎等からほぼ毎日顔を合わせる機会となるが、周囲からの理解が得られず孤立感を生むことが多い。そのため、保育者は親同士や子ども同士の関係性を繋ぐ役割や雰囲気作りをしていくことが重要だと考える。Cさんの母親においても公園で遊ばせている際に、他児の母親の中に入ることが出来ず乳幼児期に孤立を感じ、辛かった気持ちが語られた。また、孫を連れた祖父母が公園

に遊びに来ていた際も、我が子の行動の様子から、孫を抱きかかえ足早にその場を離れた出来事を辛かったと語られていた。公園で遊ぶ一時のこのため、ずっと落ち込むということはなかったと繰り返し語られていた反面、辛かったという言葉も同様に繰り返し語られた。そのため、母として強くあらねばと辛さを抑え、耐えている印象を受けた。

表 6「子育てで嬉しかったこと」の結果として、【子どもの成長】の内容が語られた。Aさんの母親、Cさんの母親が共通して語られており、子どもの成長が緩やかであるがゆえに、出来なかったことが出来るようになったときの喜びが大きく、じつくりと子どもの成長が見られることが語られた。保育者や教員は、我が子が出来なかったことが出来るようになったときの、親の嬉しさや喜びに寄り添い、一緒に喜び合える関係性を築くことが重要である。Bさんの母親は、周囲の子どもたちが我が子が困っていることを学校に知らせてくれたことの嬉しさについて語られた。周囲の子どもたちが、我が子のために自ら行動を起こしてくれたことや、関心を示してくれたことに嬉しさを感じたのだと考える。

表 7「心の支えになったこと」の結果として、【最大の協力者と親としての成長】の内容が語られた。Aさんの母親と Bさんの母親は、配偶者が心の支えであり、最大の協力者であることが語られた。障害のある子どもをもつ母親の精神的健康や養育態度に最も影響するのは、配偶者（夫）からのソーシャルサポートであると多くの研究で指摘されており、配偶者（夫）のサポートがいかに重要であることがわかる<sup>3) 4) 6)</sup>。Cさんの母親は、我が子の純粋無垢な姿から学ぶことがあり、親として成長することが出来ていることが語られた。様々な苦しい思いや辛い経験が、親として大きく成長出来たと前向きに捉えていることが伺えた。

保育者や支援者は、親と一緒に子どもの成長を喜び合える関係性を築くことが重要である。母親が孤立感を抱くことがないよう、親同士や子ども同士の関係性を繋ぐ役割や雰囲気作りをしていくことが重要であると考え。Cさんの母親の公園での出来事の語りや、表 4「診断名を知ったときの気持ち」の結果から、精神的負荷がかかることが容易に想像出来、いかに心理的・精神的なサポートの重要であることが分かる。母親の揺れ動く心情や気持ちに寄り添い、語られる言葉のみでなく、心の奥底を想像し理解しようとすることが重要である。

## V. おわりに

本研究によって、乳幼児期の子育てに焦点を当て、母親の揺れ動く心情や気持ちを確認することが出来た。しかし、母親 3 名に対するインタビュー調査結果を基にした研究であるため、分析が不十分であることが言える。しかし、発達障害がある子どもの母親に直接インタビューを実施出来たこと、予備的研究として意義のあるものと考え



る。今後も研究を進めていきたい。

#### 謝辞

本論文の執筆にご協力下さいました 3 名の保護者の方たちに、心より感謝申し上げます。

#### 引用文献

- 1) 本郷一夫 (2005) 「気になる子」幼児とは 言語, 34 (9) : 42-49 項
- 2) 増田貴久 (2020) 登校を渋る発達障害児の中学校進学をめぐる母親の心情に関する質的分析 弘前大学教育学部紀要 第 124 号 : 103~112
- 3) 森口香・岩満優実・山本賢司・金生由紀子・中村賢・井上勝夫・宮岡等 (2008) 広汎性発達障害の子供をもつ母親のソーシャルサポートの検討 ストレス科学 23, 104-114 項
- 4) 仲森みどり・大谷正人 (2016) 発達障害幼児の保護者への理解と支援— A 市療育施設 の保護者を対象としたアンケート調査より— 三重大学教育学部研究紀要 67 87-98 頁
- 5) 仲森みどり (2018) 人的環境としての保育者の支援の在り方 —発達障害幼児とその保護者に関わる保育者に焦点を当てて—愛知文教女子短期大学研究紀要第 39 号, 30 頁
- 6) 岡野維新・武井祐子・寺崎正治 (2012) 広汎性発達障害児をもつ母親の育児ストレスと父親の母親に対するサポート 川崎医療福祉学会誌 21 (2), 218-224 項
- 7) 田宮・大塚 (2005) 軽度発達障害児の就学にむけての保護者への支援—S 大学教育学部附属幼稚園の実践を通して— 保育学研究, 43 (2) : 223—232
- 8) 田中富子 (2015) 保護者の障害理解と障害説明の関連 —保護者が捉えた発達障害児の自己への疑問調査から— 佛教大学大学院 社会福祉学研究科篇 第 43 号 39-40 項
- 9) 辻あゆみ (2022) 発達障害児者の母親の成長とその支援 風間書房
- 10) 辻あゆみ・いとうたけひこ (2023) 発達障害児者の母親の語りからみる本人の人生 元園長との振り返り面接記録のテキストマイニングと質的内容分析 和光大学心理科学 第 44 巻第 1 号 29 - 48